



足の裏が、くすぐったいのはなぜ

皮ふの下の神経のせい

足の裏がくすぐったいのは、皮ふの下の神経が、感じやすい部分だからです。

皮ふのすぐ下には、体の外からのいろいろなしげきに応じるために、いろいろな神経が集まっており、いろいろなものを感じとっています。これを皮ふ感覚といいます。温かさを感じる温点、冷たさを感じる冷点、痛さを感じる痛点などがあり、これらを感じ点といいます。体の部分によって、これらの数やちらばり方はちがいます。

しかし、くすぐったいということを感じる点というものはないため、痛点の多い部分に、軽くふれられたりすると、痛いと感じるのではなく、くすぐたく感じるのだらうと、考えられています。

足の裏やわき腹、わきの下やあごの下、内ももなどが、感じやすい部分です。

かゆみも同じ神経のまちがい

同じことが、力にさされたときなどの、かゆみについてもいえます。かゆみを感じるのは、痛みを感じる神経のまちがいだという考え方です。それは、かゆみを感じる神経というのはないため、どういうわけかはわからないが、さされて痛いはずが、痛みを感じる神経が、かゆいと感じてしまうというものです。(監修・保志 宏)

自由神経終末(痛い) マイスナー小体(触覚) ルフィニ小体(温かい)
クラウゼ小体(冷たい) パチニ小体(おしている)

